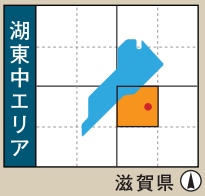
史跡
国指定

# 老蘇森（おいそのもり）

安土町東老蘇　昭和24年7月13日指定




**東海道新幹線が、安土町で国道8号線と交差する付近にある、鬱蒼と繁る森が老蘇森です。老蘇森は『源平盛衰記』に記載があるほか、多くの和歌にも詠まれるなど、古来より、東山道の名所として有名な森です。『梁塵秘抄』には、近江国にかかわる歌枕の一つとして老曾（おいそ）があげられています。**

| 当時のできごと | |
|---|---|
| 851年 | 奥石神社が正六位上に昇叙 |
| 1142年 | 佐々木氏の祖定綱が生まれる |
| 1602年 | 中山道成立 |

## 老蘇森の伝説

老蘇森に鎮座する延喜式内社『奥石神社（おいそじんじゃ）本記』によると、もと、この地は地裂け水涌く不毛の地でしたが、孝霊天皇の世に石辺大連（いそべのおおむらじ）という名の翁が松・杉・檜などの苗を植えたところ、神の助けにより大森林に成長したと伝えられます。

## 老蘇森の変遷

老蘇森は、元来は安土町東老蘇から西老蘇まで広がる広大な森で、古くから東山道（近世では中山道）を旅する人たちを慰めてきました。特に、ホトトギスの名所として、多くの歌にも詠まれてきました。森の中には天児屋根命（あめのこやねのみこと）を祀る式内社奥石神社が鎮座し、近江守護佐々木氏や柴田氏、根来氏などの崇敬を集めました。佐々木氏の本城観音寺城は、老蘇森の間近にあります。森は、現在では東老蘇の一画にまで縮小してしまいましたが、今なお、樹齢500年を超える杉などの巨木が、1400本以上も生育する豊かな森林となっています。



史跡　老蘇森



奥石神社

## ［歌の中の老蘇森］

老蘇森は、近江国にかかわる歌枕の一つとして、またホトトギスの名所として多くの歌に詠まれたり、紀行文などにも取り上げられたりしています。老蘇森を題材にした歌の一部をご紹介します。

---

いとせめて　なほ物うきは　春を経て
老蘇の杜の　うぐひすの声

（藤原為家『新千載和歌集』）

郭公（ほととぎす）　なほ一声は　思ひでよ
おいその杜の　夜はの昔を

（藤原範光『新千載和歌集』）

東路の　思ひ出にせむ　郭公（ほととぎす）
おいそのもりの　夜はのひとこえ

（大江公資『後拾遺和歌集』）

くりかへし　なほうき物は　数ならで
我身老その　森のしめ縄

（『新後撰集』）




『近江名所図絵』より



老蘇森全景　背後の山は観音寺城跡

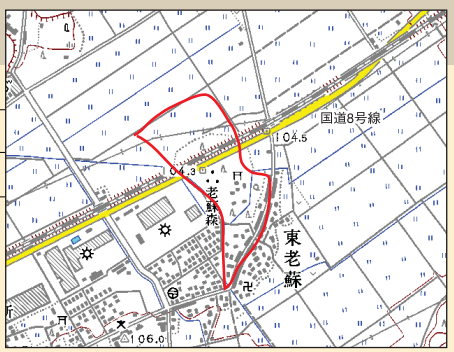
## 関連する文化財

| | |
|---|---|
| **沙々木神社**（安土町） | 佐々木氏の祖神を祀る。古来より佐々木氏の崇敬を集める |
| **石寺遺跡**（安土町） | 観音寺の城下町遺跡 |
| **中山道愛知川宿・武佐宿**（愛知川町・近江八幡市） | 中山道の宿場として栄える。今も昔日の面影を残す |

## もっと深く知りたい

| | | |
|---|---|---|
| **安土町教育委員会** | ☎0748-46-7214 | 蒲生郡安土町大字小中1-8 |
| **安土城考古博物館** | ☎0748-46-2424 | 蒲生郡安土町下豊浦6678 |
| **五個荘町立歴史民族資料館** | ☎0748-48-2602 | 神崎郡五個荘町宮荘681 |

**老蘇森へのアクセス**　JR琵琶湖線安土駅下車




【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月